

道内の津波避難計画策定モデル市町村に

積丹町が先行して策定へ

東日本大震災を教訓に、住民避難の指針となる津波避難計画の新たな策定や見直しが急がれています。

道がモデル6市町村を選定

北海道は、道内沿岸部の81市町村のうち先行して津波避難計画を策定する道内6市町（釧路市、北斗市、えりも町、湧別町のほか、日本海側からは積丹町と羽幌町）を選定しました。

選定された積丹町を会場に、国や道、日本海沿岸の市町村などの防災担当職員が参加した研修会が開催され、当町を参考事例地として、津波警報や注意報が発表された場合の初動体制や避難勧告・指示の発令基準などについて示す、全体計画（素案）づくりや、地域住民も加わった具体的な避難経路や避難場所などを示す「地域計画（素案）」づくりの研修をしながら、平成24年度中の計画策定を目指しています。



災害図上訓練「DIG」の様子

地域の実情にあわせた計画づくり

12月14日、余別町の皆さんも参加した、津波避難計画づくり研修会が余別地区コミュニティセンターで開催されました。

研修会では、札幌管区気象台の阿南地震津波防災官から日本海側の地域で想定される津波や津波が起こるメカニズムなどの講演、道消防学校の藪本主任講師の指導のもとでの、災害図上

訓練「DIG」（*注1）が行われました。

参加者は、余別町の地図を見ながら、広場や消火栓の位置、避難通路、地域の特徴などを確認し、更に、平成22年3月に町が作成した津波浸水予測図（防災マップ）と照らし合わせ、実際に津波が押し寄せた場合の避難場所や避難経路、避難に際し心配な点などについて話し合いをしました。

参加者からは、災害時に誰が要援護者となりうるか事前に把握し、近所の方や自治会などの避難体制を構築することが大切、などの意見が出されました。

今後、行われる研修会では、これら避難対策上の問題点を抽出し、問題解決に向けた対策案を出し合い、同計画に反映させることにし



ています。

また、町内の他の集落でも進められるこうした住民参加型の計画づくりは、地域の実情にあわせた計画づくりができ、実際の非常時にも円滑な避難行動が期待されています。

一方、計画策定に最も重要な道の日本海沿岸の津波浸水予測図の作成作業は、日本海海岸の過去の古い津波災害歴の調査に

時間を要しており、同計画の策定への影響が心配されています。

（*注1）

災害図上訓練「DIG」とは、地図を用いて、地域で大きな災害が発生する事態を想定し、地図と地図の上にかける透明シート、ペンを用いて、危険が予測される地帯や避難場所、避難経路などを上に書き込んでいく訓練のことです。

国の交付金を活用して 衛星携帯電話を配備

町では、災害発生時に確実な情報収集や伝達が行われるよう、固定・携帯電話の使えない場所や災害時でも通話が可能な衛星携帯電話4台（総額197万円）を購入し、役場庁舎、入舩支所、余別支所に配備することになっています。



NTTの衛星通信移動無線車による実演

11月18日、役場前で防災訓練を兼ねたNTT東日本(株)の衛星通信移動無線車（ポータブル衛星車）のデモンストレーションが行われました。



ポータブル衛星車は、衛星通信を用いて何も無い場所でも公衆電話を最大40回線開設できる装置で、発電機を搭載しているため、停電中でも開設が可能です。3月に発生した東日本震災の際に、岩手県大槌町で活躍した同車を当町に派遣展示しました。

国(林野庁)と積丹町が連携 共同施業団地の森林整備順調に

— 町内初の報道見学会開催 —

積丹町と石狩森林管理署(独) 森林総合研究所札幌森林農地整備センターの3者は、国有林と町有林(分収造林地含む)が隣接している「婦美丸山」、「婦美六地区」、「余別」の3つの地区、合計1,020haにおいて、国と町が相互に利用できる効率的な路網の整備や間伐などの森林整備の円滑な推進を図るため、平成20年11月に道内で初の「森林整備推進協定」を締結しています。



国有林・積丹林道から町有林・余別団地へ続く基幹作業道

◆ 共同施業団地報道見学会を開催

林野庁北海道森林管理局(札幌市)では、道内の各管理署管内の事業の取り組みについて広く理解を深めてもらうため、報道関係機関などを現地に招いて説明する見学会を開催しています。

12月6日、積丹町では初めて婦美丸山共同施業団地で行われた「積丹共同施業団地記者見学会」には、林業や建設業関

係の新聞社など計10社が参加。同地区の国有林内で行われている保育間伐や路網の整備状況などを見学しました。



午後からは、総合文化センターに移動し、津元道森林管理局長や山本石狩森林管理署長、船城森林農地整備センター札幌水源林整備事務所長、松井町長などが共同施業団地でのそれぞれの計画事業の特色や間伐材の集積場の共同利用、販売など、今後の課題などを説明しました。

協定締結4年目を迎えた共同施業団地での施業は、作業道等の路網の整備を連携して行うことで、間伐等の効率化やコスト削減が図られ、共同施業団地3カ所では、間伐等136ha、利

用材積4,555m³、作業路17,065mと順調に施業が進められています。

◆ 「積丹林道」から余別団地へ野塚ウエンドから谷を越えて3つの共同施業団地のうち余別団地は、保護水面に指定されている余別川上流右岸に位置し、河川を横断して作業道を整備する方法しかなかったため、間伐等の保育施業が遅れていました。協定により、野塚ウエンドか

ら西河・来岸の奥地のいくつもの谷を超える「積丹林道」と接続し、余別団地へとつなぐ基幹作業道の開設計画が実現。昨年度から造成工事が進んでいます。今後、この路網整備により、遅れていた余別団地の森林整備が可能となり、森林の持つ多面的機能の発揮が期待されるほか、災害発生時の孤立集落への救援ルートや一時避難など、林道や造林作業路網の有効性が高まっています。

クリスマスツリーを寄贈

町では、クリスマスに向け、日本たばこ産業株式会社(東京都)にトドマツと同社北海道支店(札幌市)にアカエゾマツを寄贈しました。

寄贈されたそれぞれのマツには、同社の社員が色鮮やかに装飾し、同社ロビーに飾られ、クリスマス期間中、同社を訪れる人の目を楽ませています。



JT北海道支店(札幌)
JT本社(東京)▶

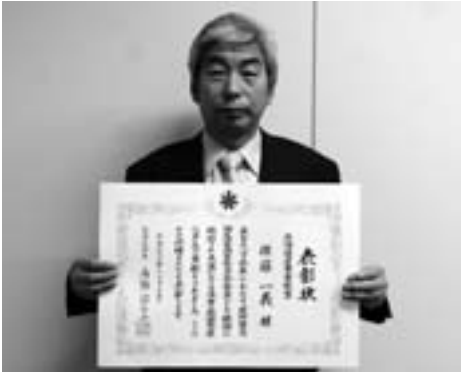
北海道産業貢献賞(水産団体功労者)受賞

佐藤一義さん (日司町)

海区漁業調整委員として貢献

多年にわたり海区漁業調整委員会の委員として就任され、その功績が顕著な方に贈られる平成23年度北海道産業貢献賞(水産団体等功労者)を、日司町の佐藤一義さん(59歳)が受賞され、12月15日に札幌市で道主催の表彰式が行われました。

佐藤さんは、平成12年7月から、石狩後志海区漁業調整委員会の漁業者代表委員に就任し、現在に至るまでの11年間、漁業調整に関する諸問題、特に共同漁業権や、区画漁業権及び定置漁業権の切り替え時における漁



場計画案の検討などに際して、地域の漁業実態を踏まえた的確な意見を述べられるなど、同委員会の職務に尽力されました。

高原道副知事(写真)から表彰状を手渡された佐藤さんは、「この度の受賞を嬉しく思いますが、今後も海区漁業調整委員としての役割を十分果たせるよう努力していきたい。」と抱負を語っていました。

統計グラフ全道コンクールで特選
西川亜紗加さん(美国小6年)
日司小学校・美国中学校が学校賞

統計についての理解と表現技術の向上をめざす北海道統計協会と北海道が主催する「統計グラフ全道コンクール」に、美国野塚小学校の児童4作品と一般から1作品が入賞、日司小学校と美国中学校が学校賞を受賞しました。

12月7日には、野塚、日司小学校、美国中学校で、また、12日には美国小学校で表彰伝達式が行われ、川井順應町統計調査員協議会会長から表彰状と記念品がそれぞれ手渡されました。昭和28年から実施され、今年で59回目を迎えるこのコンクールには、道内の小学生から一般



野塚小学校



日司小学校



美国中学校

入選
第1部(小学校1・2年の部)
佐藤はるかさん(野塚小2年)
西川亜依里さん(美国小2年)
第2部(小学校3・4年の部)
入選
高野 夏海さん(野塚小3年)
生駒 香織さん(野塚小4年)
(合同作品)
入選
第3部(小学校5・6年の部)
特選
西川亜紗加さん(美国小6年)
入選
第5部(高校生以上一般の部)
入選
西川 里佳さん(美国町)
学校賞
日司小学校
美国中学校



美国小学校